

長期滞在型町づくりへ

新潟県阿賀町で協議会発足

阿賀野川舟下りなどの観光資源を持つ新潟県阿賀町で、町の資源を生かして旅行者などの長期滞在を促進、町の活性化を図る組織「阿賀町健康立国推進協議会」がこのほど発足し、その記念セミナーが2月18日、同町の観光施設「阿賀の里」で開かれた。地元や中央の観光関係者で組織する協議会の役員らがパネリストとなり、協議会が目指す活動の方向、町への提言をそれぞれの専門分野から、聴講に訪れた町の各種団体、商工会関係者らに伝えた。ここではセミナーの要旨を紹介する。コーディネーターは協議会会長の岩崎輝雄氏（健康評論家）、パネリストは協議会理事の阿岸祐幸（北海道大学名誉教授）、前田勇（立教大学名誉教授）、原祥隆（国際観光サービスセンター専務理事）、船山龍二（日本ツ

リズム産業団体連合会会長）、杉山悦朗（日本エコツーリズム協会事務局長）、白田眞一（ICSコンベンションデザイン社長）の各氏。

◇

阿岸氏「ヨーロッパでは温泉地を健康保養地、そこで治療することを健康保養地療法という。日本にも温泉を利用した素晴らしい健康保養地を作るべきだ。阿賀町には素晴らしい温泉があり、しかも種類が豊富。周りには川があり、森林があり、山がある。これらをよく有機的に結び付けられ、日本の健康保養地のモデルになると思う」

前田氏「地域の生活と文化をいかに魅力ある観光対象にするか。生活と文化の中には、その地域とかわりを持った人物の歴史や記録も入る。阿賀町の、特に津川という地名を聞いた

※新潟県阿賀町 阿賀野川流域の2町2村（津川町、鹿瀬町、上川村、三川村）が合併して、平成17年4月に誕生。

町の約9割が山間森林地帯。面積約953平方キロで、香川県の約半分に相当。人口約1万4千人。新潟市中心部から磐越自動車道経由で約40分。阿賀野川とこれ

に注ぐ溪流、温泉かのせ、御神楽、三川、津川、きりん山など）、大小の名山など自然に恵まれており、日帰り温泉入浴や自然体験の旅行者が多い。観光入り込み客は平成8年度の260万人をピークに減少し、平成19年度実績は約181万人。

※阿賀町健康立国推進協

あとはソフトの充実に全力を挙げることだ。前田先生が指摘された、イザベラ・バードが訪れた津川の町並みは昭和30年代の面影がある。これは大切にしてほしい。観光は誰のためにあるのか。住んでいる人のため

に注ぐ溪流、温泉かのせ、御神楽、三川、津川、きりん山など）、大小の名山など自然に恵まれており、日帰り温泉入浴や自然体験の旅行者が多い。観光入り込み客は平成8年度の260万人をピークに減少し、平成19年度実績は約181万人。

役員は会長に健康評論家の岩崎輝雄氏、副会長に阿賀町長の神田敏郎氏、理事に今回のパネリストの各氏のほか、地元の阿賀町観光協会会長の佐伯光俊氏、NPOにいがた奥阿賀ネットワーク理事長の齋藤吉平氏ら計13氏。

にあることを意識して取り組む人材育成が必要だ」

杉山氏「エコツーリズムとは、自然や文化や歴史の遺産を守りつつ、それらのふれあいをガイドの解説を受けながら楽しんでもらう、地域振興に結び付ける、てほしい」

白田氏「我々が一番知るべきことは、まずは笑顔をみせて、お客さんへの歓迎の姿勢を示すこと。ホスピタリティの文化をなくすと、お客さんは二度と来なくなる」

岩崎氏（コーディネーター・まとめ）「この協議会はこれまでにない新しい取り組みを目指している。温泉を活用した地域住民の健康作りと地域開発に軸足を置き、住民参加と利益共有を前提に、まず住民と訪れる人に癒やしと健康を与えるために豊富な地産地消のオリジナル商品を用意することだ。基本は資源有効活用

阿賀町健康立国推進セミナー



2月18日に行われた記念セミナー

の事業の成り立ちだ。長もかきたい」